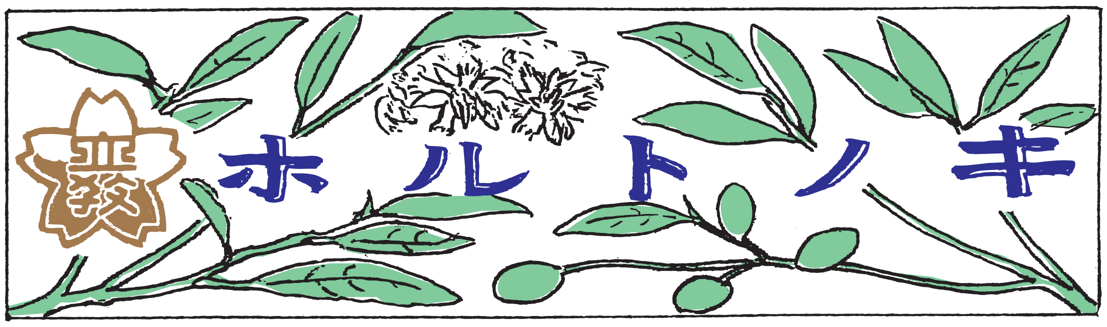


メモリアルゾーンに春の彩り

中学校入学式式辞

校長　豊田　由貴夫

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。

　皆さんはこれから六年間、この立教池袋中高で学ぶことになります。中学・高校時代は人生で最も多感な時期と言われます。悩むことも多いかもしれませんが、一生つきあえる友達が出来るのもこの中高の時代です。どうか六年間、友達との時間を大切にしてください。

　入学に際して、立教池袋中高の理念を話しておきます。

　立教学院では、小学校、中高、大学と一貫連携教育を行っています。そしてそこでは、「テーマを持って真理を探究する力」と「共に生きる力」を身につけることを目標としています。

　「テーマを持って真理を探究する力」とは、主体的にテーマを探し出し、みずから知識を得ようとする力のことです。常に問題意識を持ち、テーマを自分で探し出し、そして知識が与えられるのを待つだけでなく、自分で探す力を身につけてもらいます。

　また「共に生きる力」とは、他者の人間性を理解し、他者の痛みを分かち合う力ということになります。私たちの生活は多くの人によって支えられています。私たちは一人では社会で生きていくことはできません。社会で生きていくためにはたくさんの人と一緒に活動することが求められます。そのような、社会で生きていく力を身につけてください。

　以上の二つの大きな目標を達成するために、もう少し具体的な目標が、日々の学校生活には必要になります。

　そのような、より具体的な目標の一つとして、本校では「リーダーシップ教育の推進」ということを掲げています。リーダーシップという言葉を使うと、自分はリーダーになるようなタイプではないと思う人がいるかもしれません。しかしここでいうリーダーシップというのは、決して他の人と違うカリスマ的な資質や際だった能力で他人を引っ張っていくというリーダーシップではなく、他の人と同じような立場で、その人なりのやり方で他の人に影響を与えていく、そのようなリーダーシップです。

　立教の人は、社会では、協調性に優れている、協調性を保ちながらリーダーシップを発揮することが出来る、そういう評判をいただいています。その意味では、このような新しいタイプのリーダーシップは、きわめて立教らしいリーダーシップです。そしてこれまで立教池袋が行ってきた教育がよく現れていると考えています。

　今後みなさんは、学校の用意したいろいろなプログラムで、他人と協調しながらリーダーシップを発揮する、そのような能力を身につけることができるはずです。立教池袋での六年間の生活で様々なことを学び、これからの社会を支えるような人物になってください。

中一組主任より

ともに登ろう

　入学おめでとう。小学校という山を登り終え、あたりを見渡せば、入学前の登山口にいたときより大きく視界が開けていることに気づくでしょう。

　前を見れば中学・高校・大学とまだまだ高い山がそびえています。そこでさまざまな経験や学問を積むほど物ごとに対する理解が深まり、いくつもの視点で見ることができるようになります。それらは将来困難な状況に遭遇しても、くじけることなく豊かな人生を拓く力となっていきます。

　「学問に王道なし」との言葉どおり、学習も登山と同じく自らを律して一歩一歩丹念に積み上げていくしかありません。

　君のまわりにはともに歩む多くの仲間や、ガイドたる私たちがついています。さあ、いっしょに頂上を目指しましょう。

（一組　山口弘泰）

Do your best and it must be First Class.

　「最善を尽くせ、そして一流であれ」清泉寮の創設者ポールラッシュ博士の言葉です。全力で挑戦することを奨励するとともに、その取り組み方も大切だと伝えています。

　これから始まる中学校生活では、いろいろなことにチャレンジしてください。今までの自分の殻を破るくらいの気持ちで臨みましょう。同時に、真摯な気持ちで取り組むことも求められます。自分の気持ちをコントロールすること（自律）が大切です。

　「天の国はからし種に似ている。人がこれを取って畑に蒔けば、どんな種よりも小さいのに、成長するとどの野菜よりも大きくなり、空の鳥がきて枝に巣をつくるほどの木になる。」

（マタイ十三章三十一節）

　これから始まる立教での学びによって、からし種のように大きく成長することを楽しみにしています。

（二組　後藤　寛）

チャレンジのために

　これから新たな学校生活が始まります。ここまでの過程は違えど、今日からは同じスタートラインです。

　中学校には、自分のやりたかったことや、新たに始めたいことを思いきりチャレンジできる環境があります。今日から始まる一日・一瞬を大切にして、自分の可能性を広げるために、勇気をもってチャレンジしていきましょう。

　ただ、意識してほしいこともあります。それは、「やりたいことと、やらなければならないことを判断する」ことです。チャレンジするのは大いに結構です。しかし、やらなければならないことをおろそかにしては、自分のやりたいこともできなくなる可能性もあります。

　まずは自律の第一歩、「判断できる」中学生になってください。

　入学おめでとう。

（三組　最上滉平）

優しい人間に

　小学校を卒業し、様々な環境で育ってきた僕たちが一つの場所に集いました。今日僕たちは「立教」という一点で結ばれています。

　立教のキーワードに「共に生きる」があります。神様の前に謙虚になった時、絶対的な人間は存在しません。誰かが絶対に正しいということはないのです。

　心身ともに変化が激しい中学三年間では、幸せを感じる瞬間がある一方、特に人間関係で悩むことがあります。

　そこで大切なのは、自分の正義を振りかざすのではなく、対話を続けていくことです。自分の感情をコントロール（＝自律）し、耳を傾け、自分の考えを伝え、合意できるまで辛抱することです。そのためには、「優しさ」が必要になります。いろんな立場の人を受け入れることができる力です。これは学校という範囲を超え、生きる上で必要な姿勢だと考えています。

　立教の授業や様々な活動で優しい人間を一緒に目指そう。

　入学おめでとう。

（四組　小林隆史）

高一組主任より

今しかできないことを大切に

　入学おめでとう。高校入学に際して簡単なメッセージを書かせてもらいます。

　私は常日頃、「今でしかできない事を大切にして欲しい」と生徒に話しています。高校時代の十七、十八歳の年令は体力的にも能力的にもピークを迎え、その年代に取り組んだ事は後の人生において大きな影響を与えます。楽をして過ごす事も可能ですが、君達が兼ね備えているエネルギー・能力は高いレベルのはずです。是非、出し惜しみする事なく最大限発揮して欲しい。古い言葉ですが「若い時の苦労は買ってもせよ」と私も若かりし頃良く言われました。多少の無理はきく年令です。スマホゲームに没頭する事やアルバイト等は高校時代でなくてもできます。高校時代でないと打ち込めない体力・能力を鍛える事に最大限努力して欲しい。高校時代は、後の大学生活、更には社会人に繋がる有意義な時として欲しい。その能力、環境が君達には与えられているのだから。

（一組　橋本　博）

千里の道も一歩から

「わたしは、既にそれを得たというわけではなく…お与えになる賞を得るために、目標を目指してひたすら走ることです」（新約聖書フィリピの信徒への手紙三章十二節から）

　高校生の始まりにおいてそれぞれが色々な思いをもち、高校生活をどのように過ごそうかと考えを巡らせているのではないでしょうか。既に具体的な目標を持っている人は何が必要なのかが明確で前に進み続けられるでしょう。そうでない人もチャレンジして自分を知るきっかけを作ってみてはどうでしょうか。

　たとえ今、「将来の夢」という大きな夢がなくても、実現できる小さな目標を積み重ねていくことで、いつか自分のやりたい事を見つけたときにその力が発揮されることでしょう。

　常に新たな目標をもって、それに向かって歩み続けてくれることを願っています。

（二組　伊藤　俊）

自由の学府

　自由はない。社会に生きる限り我々は何かしらに束縛されている。不自由極まりない。

　外に出れば、「教員」を意識して過ごさなければいけないし、内に居ては「夫」や「父」を意識しなければいけない。でも、それを窮屈に感じたことはないし、不幸に感じたこともない。いや、むしろ幸せだ。なぜそう感じるのか。それは、自らが選んだ道だからだ。

　十年ほど前に「自由の学府」の「自由」は、「選択の自由」なのだと教えてくださった先生がいた。渦巻いていた矛盾がある程度解消されたのを覚えている。

　義務教育を終えた君たちは、「高校生」になることを自ら選んだ。さらには「立教池袋」を自ら選んだ。自由に選んだ道だ。そして立教池袋で過ごす中で、新たにどのような選択をして人生を築きあげるのか。楽しみではないか！

　入学おめでとう。

（三組　永田真一）

求めなさい

「求めなさい。そうすれば、与えられる。」（マタイ七章七節）

　この聖書は有名な箇所ですね。しかし、待っていればなんでも与えられるという意味ではありません。これには、続きがあります。**「探しなさい。そうすれば、見つかる。門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。」**

　私の中学生活は特に何もありませんでした。そして、高校は立教池袋とよく似た高校に通いました。高校生活はとても充実したものでした。部活動も生徒会も勉強も多くのことを経験し、自身の人生に大きな影響を与えました。

　さて、冒頭の聖書が言いたいことは、失敗を恐れず自分からチャレンジしなさいということです。学校は失敗をしても良いところです。多くのことを立教池袋でチャレンジしてみてください。

　入学おめでとう。

（四組　吉井佑介）

中学新入生のために

―心がけて欲しいこと―

小学校時代とちがって交友関係も広がります。放課後のクラブ活動、生徒会活動などで下校の時間帯も変わり、また、授業科目の増加で、家庭での予習、復習の量も増え、そのための時間も必要になってきます。これまでの生活のリズムを、早く中学校生活のリズムに切り替えなければなりません。この切り替えがスムーズにいかないとき、遅刻、忘れもの、授業態度、そして持ち物や服装に影響が現れてきます。

ご家庭におかれましても、ご子息のきちんとした生活習慣の確立にご配慮下さるようお願い致します。

しっかりした生活習慣の確立があって、はじめて真の心身の成長と学習の向上がのぞめるということです。これは本人の自覚がなければなりませんが、特に、次の点でご家庭でもご協力下さい。

①意欲的・積極的な生活

自分なりのしっかりした目標を持ち、毎日を生き生きと意欲を持って生活し、だらだらした無気力な生活におちいらないように!!

②規則正しい生活習慣

新しい中学校生活に慣れるまでは疲れやすいものです。早寝早起きを心掛け、健康管理に気をつけ、遅刻・欠席をなくしましょう。また、家庭学習の習慣も身につけるようにして下さい。何事もスタートが肝心です。

③何事にも集中力を

遊びと勉強の「けじめ」が大切です。貴重な時間を最大限有効に使う工夫をしましょう。特に授業に対する集中力を!!

④忘れ物防止のために

本校では、各種の提出物が多いので、教具教材はもちろんのこと、提出物等については期限をしっかり守って下さい。メモ帳を一冊用意して、整理のメモをとる習慣を身につけて下さい。約束を守ることは生活の基本です。

⑤友人を大切に

自分のわがままを抑え、困っている人や弱い立場にある人に優しい思いやりの気持ちを持つようにしましょう。お互い尊重し合い、友人を大切にすることは、自分の学校生活を楽しくする原動力になります。

⑥学校生活を積極的に

充実した学校生活は、学習活動、クラブ活動、生徒会活動のバランスによって成り立ちます。特性、適性を十分考え、自分の意志で決定し、積極的に参加したいものです。この項については他の場で詳しい説明がありますので、参考にして下さい。

⑦「朝の読書」の習慣を

〝読書は心の糧〟と昔から言われています。一年生では、朝の八時一〇分から二〇分まで、クラスにおいて「朝の読書」を実施しています。図書館や先生方から推薦されたよい本を自分からすすんで読んでいきましょう。忙しい朝の十分間をぜひ、「心の糧」の時間としてください。

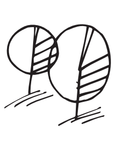
⑧家庭での役割もしっかり

中学生になったのを機会に、今まで親に頼っていたことを自分の仕事に切り替え、家族の一員としての立場を自覚し、自らの責任において、その役割をしっかり果たして下さい。自分のことを自分で行う身辺的な自立のできないものは、人格的な自立もできないものです。

⑨学校生活の心得

学校の秩序を維持するためにいろいろな規則があります。新入生諸君はルールを守って、楽しい学校生活を送りたいものです。

（赤い冊子『スクールハンドブック』をよく読んで下さい。）



【学校時】

始業・終業などの、時間の区切りは次の通りです。

※水曜日は朝礼のため始業は八時です。

始業	8：20
学活	8：20～8：30
1	8：30～9：20
2	9：30～10：20
	（モーニングブレイク）
3	10：35～11：25
4	11：35～12：25
	（昼休み）
5	13：10～14：00
6	14：10～15：00

※土曜日は四時間目終了後、昼食・学活を行い、終業となります。

※下校時刻は、土曜日を含め、一七時五〇分です。

【教科担任制】

教科	時数	担当
国語	5	廣瀬・村野・高橋・岡谷
社会	3	市橋・小島
数学	4	伊藤・酒井
理科	3	後藤
音楽	1	西澤・村林
美術	1	中仙道
保体	3	最上
技術	2	山口
英語	7	新島・小林・菊池・フリーゼン
聖書	1	佐山
礼拝	1	シュタール・佐山・組主任
学活	1	組主任

中学校では、教科によって先生が変わります。時間割はいずれ発表になりますが、上記が科目と担当の先生です。

選修教科（二時間）については、後日プリントで詳しく説明します。

【弁当】

中学校では給食がありませんので、必ずお弁当を持参して下さい。なおカフェテリアでは、パンや牛乳、おにぎりなどを販売していますが、これはあくまで、弁当を忘れたり、持参できなかったときの便宜的処置です。育ち盛りの中学生には、栄養の点から考えても、手作りのお弁当が必要だというのが、本校の方針です。もし忘れた場合には、午前中の休み時間のうちに、カフェテリアで代金を払って購入することになっています。

【欠席の場合】

朝八時までを目途に学年の先生に連絡して下さい。

職員室直通の電話番号

03-3985-2713（中1・中2）

03-3985-2714（中3・高1）

03-3985-2725（高2・高3）

▽欠席の場合は、当日必ず電話で連絡し、遅刻・早退の場合には、生徒手帳の連絡欄に記入し、主任の認印を受ける。

保健室だより

▽開設時間――八時～一七時五〇分（土曜日は一三時二〇分）。ただし、一二時二五分～一二時四〇分は緊急の場合のみ。

▽利用方法――具合の悪いところをはっきり言って指示に従うこと。また、処置を受けた人は必ず名簿に記入すること。

▽体育見学届――具合が悪くて体育を見学する時は、届の用紙に記入し、保健体育担当の先生の許可を得ること。見学届の用紙は保健室にあります。

▽毎週水曜日の一二時～一三時三〇分は、校医が来校します。

オリエンテーション

中学新入生諸君は、七日（木）～一二日（火）までを、学校生活に慣れる期間として、授業を行わず、担任から学校生活の案内などを行います。詳細は別紙プリントを参照して下さい。

保護者会の御案内

前期の行事予定は、別紙プリントを参照して下さい。早速ですが、四月一六日（土）午後二時三〇分より各組教室にて、第一回の組別保護者会を行います。ご出席下さい。

※なお、オリエンテーションおよび保護者会の日程に変更が生じた場合は、別途学校よりお知らせします。

相談室から

ひとりで悩まず相談しよう

立教池袋中高には、皆さんの心の整理や問題解決の援助をするために相談室があります。学習や進路のこと、家族や友人などの人間関係のこと、自分の健康や性格のことなど、どんなことでも相談に来てみて下さい。内容についての秘密は守られます。

相談申し込みは保健室で受け付けます。

今月の聖句

[30]When he was at the table with them, he took bread, gave thanks, broke it and began to give it to them. [31]Then their eyes were opened and they recognized him, and he disappeared from their sight.

Luke 24:30~31

In this famous scene, Jesus meets some of his disciples after the resurrection. They had been walking to Emmaus, a village not far from Jerusalem. At this time, they were feeling rather afraid, tired, and uneasy mainly because their leader, Jesus, had just recently been killed as if he were a common criminal. As they were walking, an unknown man joined them and was chatting with them along the way. They began to feel more comfortable talking to this man who was asking questions about the recent death of their leader. The man then tried to leave, but the disciples asked him to stay with them and have a meal together. When the man, as it says in verse 30, sat down, broke the bread and said a prayer, they realized it was not just an unknown man, but rather it was Jesus himself, who had been resurrected and stayed with them for some time. But as soon as they realized who he really was, the man vanished. As we begin a new year together, with some new faces and some friends graduated or going to other schools, we can appreciate the feelings of the disciples in this scene. As they walked with him, the feelings of unease started to go away because his way of talking seemed strangely familiar. They didn't know it was Jesus at that time, but their inner feelings were touched, just as when Jesus was with them. When we return and start a new school year, we may also have some feelings of fear or unease. Our bodies and minds may get easily tired because of all the new things around us. But then we realize there is more familiarity than we knew at first and can slowly or suddenly feel more at ease. These feelings we have are furthermore compounded by the unknown; how long and how deep will this corona pandemic last? How long must the people of Ukraine suffer in an unjust war upon their land and people? For the disciples on the road to Emmaus, the re-appearance of their teacher was "eye-opening." As the new school term begins, let our eyes also be opened to the saving grace that Jesus promises to all who believe in him, even in these troubling times.

Chaplain Mark Stahl